



平成 29 年 5 月 10 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 旅 工 房
 代 表 者 名 代表取締役会長兼社長 高 山 泰 仁
 (コード番号：6548 東証マザーズ)
 問い合わせ先 取締役執行役員前田 宣彦
 コーポレート本部長

TEL. 03-5956-3044

業績予想の修正及び営業外費用（為替差損）の計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成29年4月18日に公表いたしました業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。なお、平成29年3月期（平成28年4月1日～平成29年3月31日）における営業外費用（為替差損）の計上につきましても、下記のとおり、あわせてお知らせいたします。

記

1. 平成 29 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	22,013	253	240	156	86 円 99 銭
今回修正予想 (B)	22,526	313	300	192	106 円 72 銭
増減額 (B - A)	513	60	60	36	
増減率 (%)	2.3	23.9	25.1	22.7	
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 3 月期)	21,697	230	226	135	75 円 18 銭

(注) 当社は、平成 28 年 2 月 16 日付で普通株式 1 株につき 10 株の割合で、平成 28 年 12 月 10 日付で普通株式 1 株につき 100 株の割合で株式分割を行っております。上記では、平成 28 年 3 月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1 株当たり当期純利益を算出しております。

2. 修正の理由

欧州方面の旅行需要に回復傾向が見られたことや、北米方面やアジア地域のビーチリゾートを中心に、卒業旅行シーズンの学生旅行需要を順調に獲得できたことから、個人旅行を取扱うレジャー部門の業績が好調に推移しました。また、法人向けの業務渡航や団体旅行を取扱う法人営業部門につきましても、企業の出張需要が旺盛であったほか、大型の団体旅行案件を受注できたこと等により業績が好調に推移しました。以上より、売上高が前回予想を上回る見込みとなりました。また、利益面につきましては、売上高の増加や当社が取扱う旅行者の人数（送客数）の増加に伴って、決済関連費用や各種手数料が前回予想時よりも増加したほか、株式市場に関連して外部専門家への支払報酬も増加いたしました。しかしながら、前述の売上高の増加に伴い、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきましても、前回予想を上回る見込みとなっております。

3. 営業外費用（為替差損）の計上

平成 29 年 3 月期第 3 四半期連結累計期間（平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日）において、21 百万円の為替差損を計上しておりましたが、その後の外国為替相場の変動により、平成 29 年 3 月期連結累計期間（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）における為替差損は 17 百万円に減少する見込みであります。

以 上